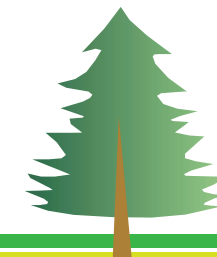




シカによる樹皮剥ぎを減らすために

岡本 卓也



なぜ剥皮するのか？

岐阜県において、ニホンジカによるスギやヒノキ等の樹皮剥ぎ（以下、シカハギ）が発生しています。

シカハギは全国各地で問題となっています。その主な発生理由は「食料の摂取」のためであるといわれています。

シカハギの特徴は？

シカハギの主な特徴は次のとおりです。

1. 樹皮が剥がされた幹には何も痕が残らず、つるっとしているか、のみでえぐったような痕（歯形）が縦横無尽に残っていること。
2. 剥がされた樹皮が幹に繋がった状態で残らず、細かくなって樹木の根元に落ちていること。

ニホンジカと同じく、ツキノワグマも樹皮剥ぎ（以下、クマハギ）をします。クマハギには、次のような特徴があります。

1. 樹皮を剥がされた幹には、垂直方向に3～4本の筋（歯形）が残っていることがあること。
2. 剥がされた樹皮片は大きく、幹に繋がった状態で残っていること。

これらの点に注意すると、シカハギとクマハギを見分けることができます。



シカハギを受けた木



つるっとした痕のみでえぐったような痕



根元に散らばる樹皮

シカハギの特徴



幹に残る3～4本の筋

幹に残る大きな樹皮

クマハギの特徴

シカハギ対策は？

シカハギを受けた樹木は、剥がされた部分から菌が侵入するなどして材に腐れや変色が生じ、価値が大きく低下してしまいます。柵で山全体を囲う、樹木一本一本に保護資材を巻きつけるなどのシカハギ対策が行われていますが、防止効果が高く、費用が安く、誰でも簡単にできる対策はありません。

そのような対策を考案するためには、様々な対策におけるシカハギの発生状況を整理することが必要です。そこでクマハギ防止のために保護資材を樹木に巻きつけた山林のうち、周辺でシカハギも発生している山林において、シカハギの発生状況を調査しました。



保護資材設置林分

シカハギを減らすために

調査の結果、シカハギの発生状況は次のとおりでした。

1. 保護資材を巻きつけた樹木（発生率 4.0% ～ 8.0%）でも、巻きつけていない樹木（同 5.7%）でも発生していました。
2. 樹木の谷側で多発する傾向にありました（山側 5.0%、谷側 77.5%、側面 17.5%）。
3. 保護資材を巻きつけた樹木では、保護資材の巻かれていない根元部分で発生していました。

これらのことから、ニホンジカは樹木に保護資材が巻かれている場合、その部分を避け保護資材の巻かれていない部分の樹皮を剥がす傾向にあると考えられました。

そのため、なるべく樹木の谷側の根元部分から樹皮を覆うことができる保護資材や、設置方法を開発することにより、効果的にシカハギを防止できると考えられます。

今後、そのような対策がシカハギを防止する効果の測定などを実施し、着実なシカハギ対策の研究を進めていく方針です。つきましては、シカハギの発生状況やニホンジカの見撃情報などについて皆さまのご協力をお願いします。



クマハギ用の保護資材が巻かれていない根元部分を剥がされた試験木